

宮川右岸堤防（桜堤）の改修計画（案）について

資料-4

第1回宮川右岸堤防改修景観検討委員会資料

堤防整備
計画区間

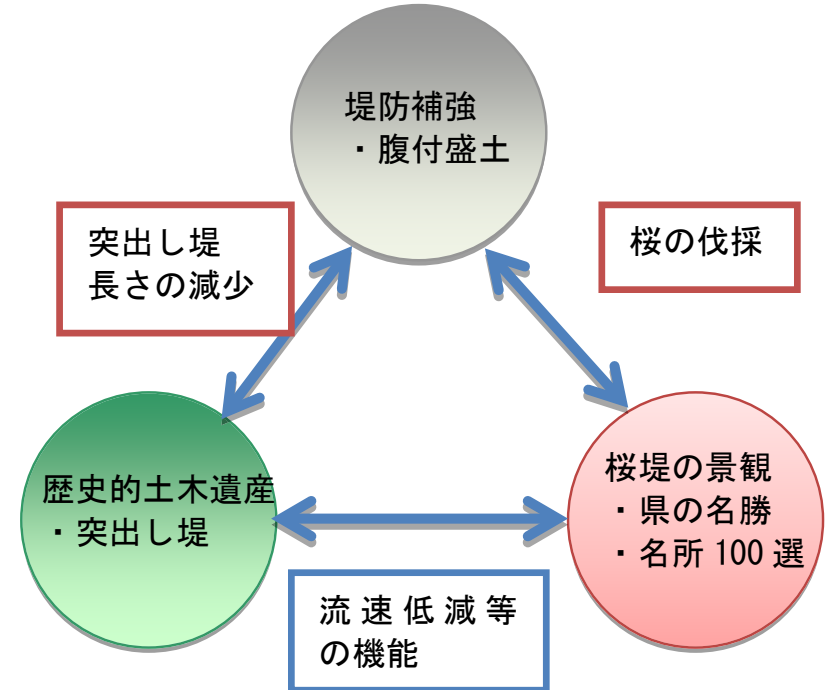
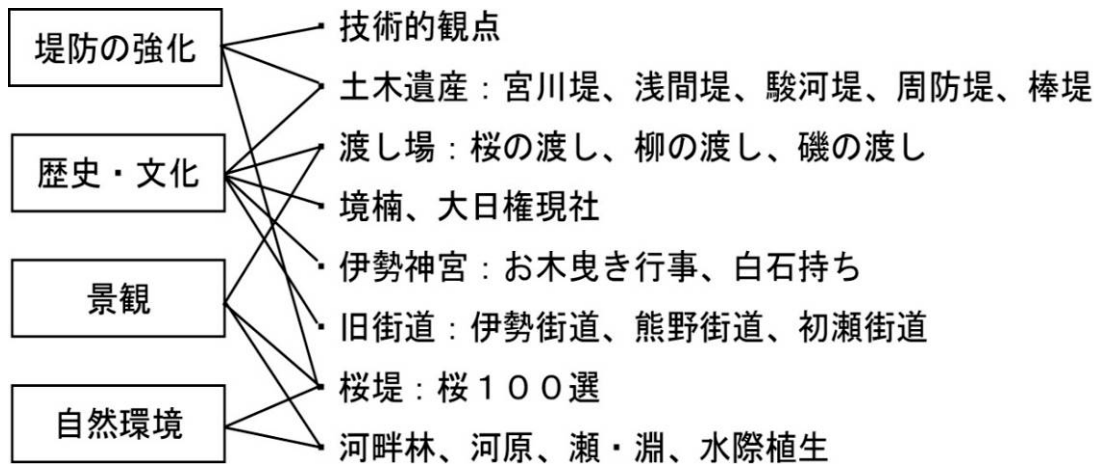
平成25年10月29日(火)

国土交通省三重河川国道事務所

- ◆ 堤防改修と歴史的施設、桜の存続は、相互に影響を及ぼしあう関係にある。
- ◆ 歴史的施設や桜の名所としての空間構造を最大限残すという視点から、宮川の多様な自然環境や地域の風土・歴史等に配慮しながら、堤防を強化する。

■ 宮川堤の歴史的評価と堤防改修計画の基本的視点

- 堤防改修は、堤防の強化（堤体拡幅）と歴史的土木遺産（突出し堤）の保全活用、桜堤の景観保全の3つの観点からバランスをとった改修計画とすることが重要である。
- 歴史的施設や桜の名所としての空間構造を最大限残すという視点から、総合的な評価が必要。



◆次回の式年遷宮を迎える頃には、見ごたえのある「平成の桜堤」を！改修コンセプトに宮川堤の改修を進めていく。

■まちづくりと一体となった堤防改修

- ・安全な堤防を整備しながら、「桜堤」も保全する。
- ・宮川堤の改修とあわせて、周辺地域の「にぎわい・活性化」につなげる。

■歴史的なもの、今ある良いものを大事にしていく

- ・江戸時代から三百年続く宮川堤の景観や治水機能を将来に引き継ぐ。

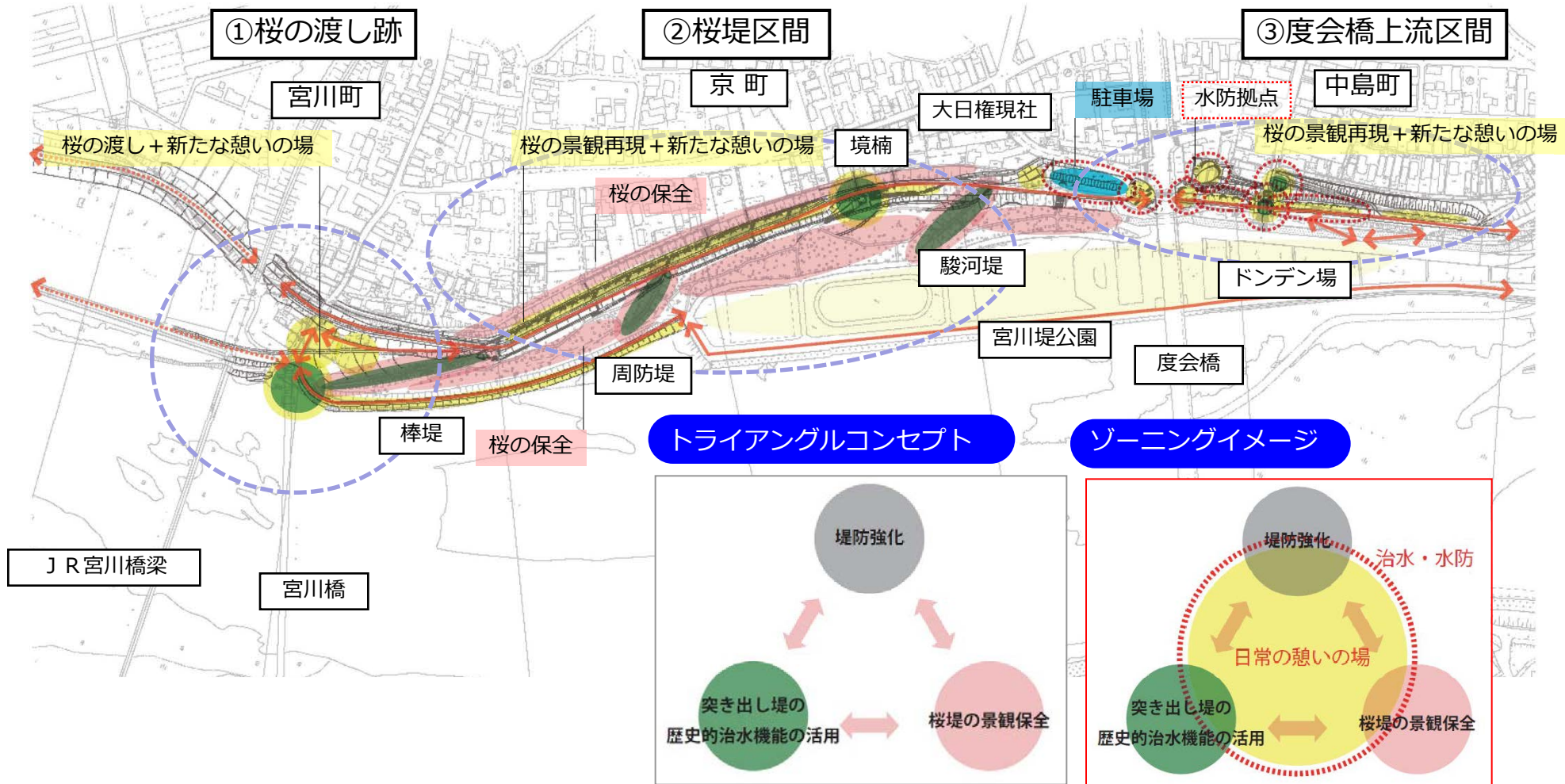
■時間の経過に伴う風景の変化を見越した堤防整備

- ・現在の風景・改修直後の風景・将来の風景を見越した堤防と景観。
- ・サクラの生長を見越し、緩やかにサクラが世代交代できる。

次回の式年遷宮を迎える頃には、

見ごたえのある「平成の桜堤」を！

- ◆ 宮川堤の歴史と文化が織りなす新しい憩い日常の場として機能するように周辺環境と一体となったゾーニングとする。
- ◆ また、日常の憩いの場と出水時の治水・水防の拠点となる場所が共存することで、利用者の治水・水防に対する意識醸成を図る。



宮川右岸堤防改修方針の概要（案）

堤防整備計画区間 約 1,000m

①桜の渡し跡区間
約200m

②桜堤区間
約500m

③度会橋上流区間
約300m

堤防を現在の位置で
大きくする区間

堤防を川側に
大きくする区間

堤防を町側に
大きくする区間

桜の渡し跡

ぼうてい
棒堤

すおうてい
周防堤

するがてい
駿河堤

ドンデン場

堤防の前出しが
困難な区間

せんげんてい
浅間堤

整備済

狭窄部

度会橋

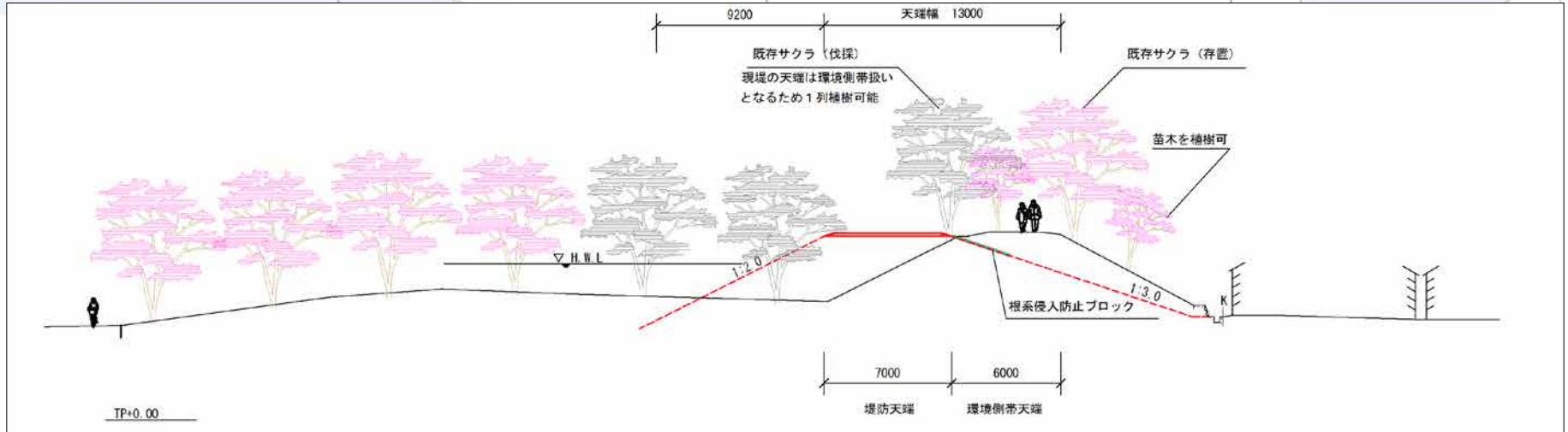
宮川

宮川橋

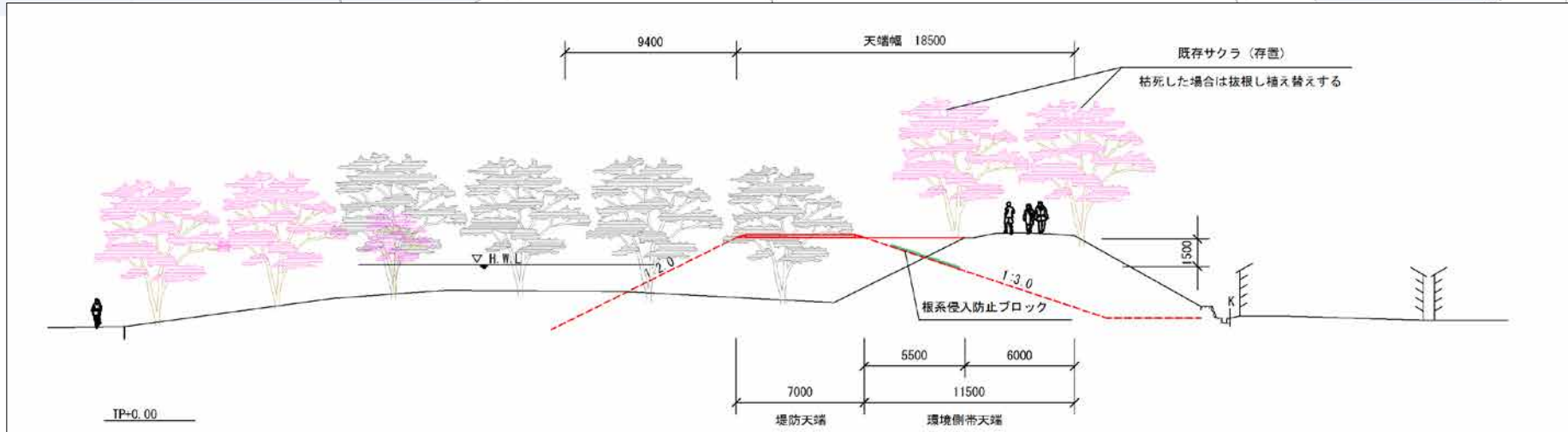
参宮線
宮川橋梁

現堤

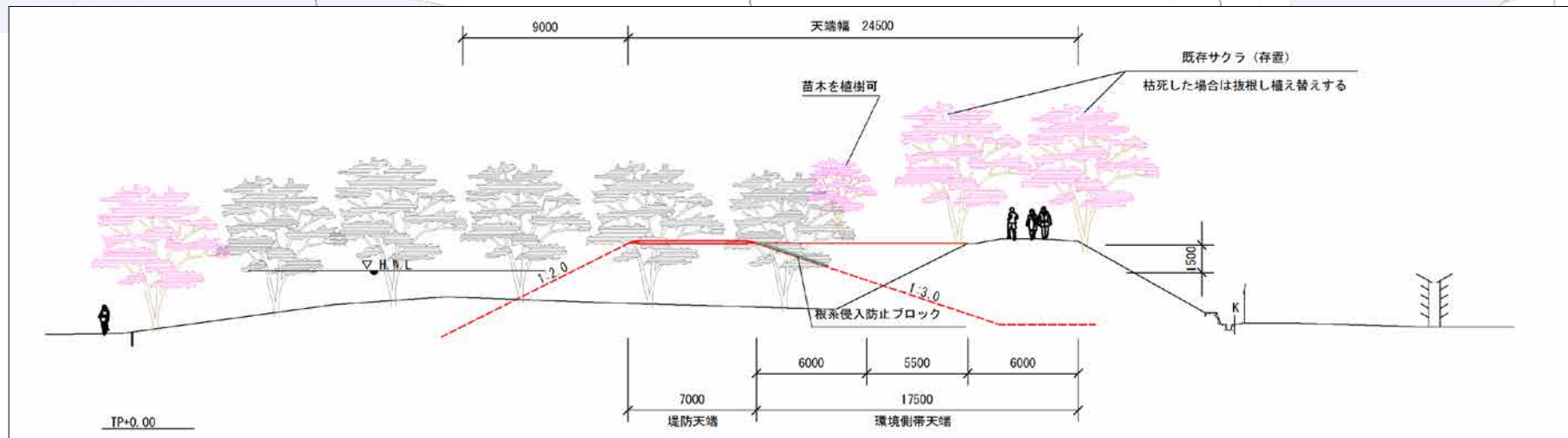
- ◆堤防川裏の桜並木を1列保全 高水敷上の桜を最大限保全
- ◆突出し堤の長さを極力保全（治水機能、環境機能の保全）



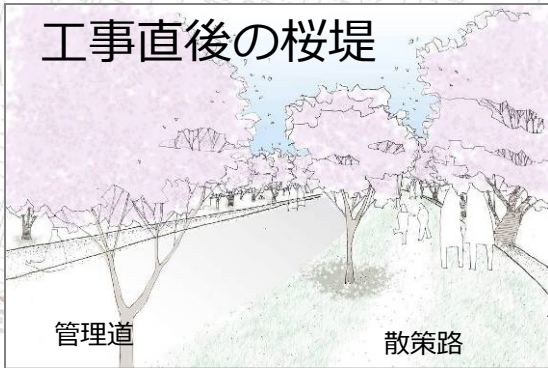
- ◆ 堤防上の2列の桜並木を保全
- ◆ A案に較べて、突出し堤が短くなり、高水敷の桜の本数は減少する



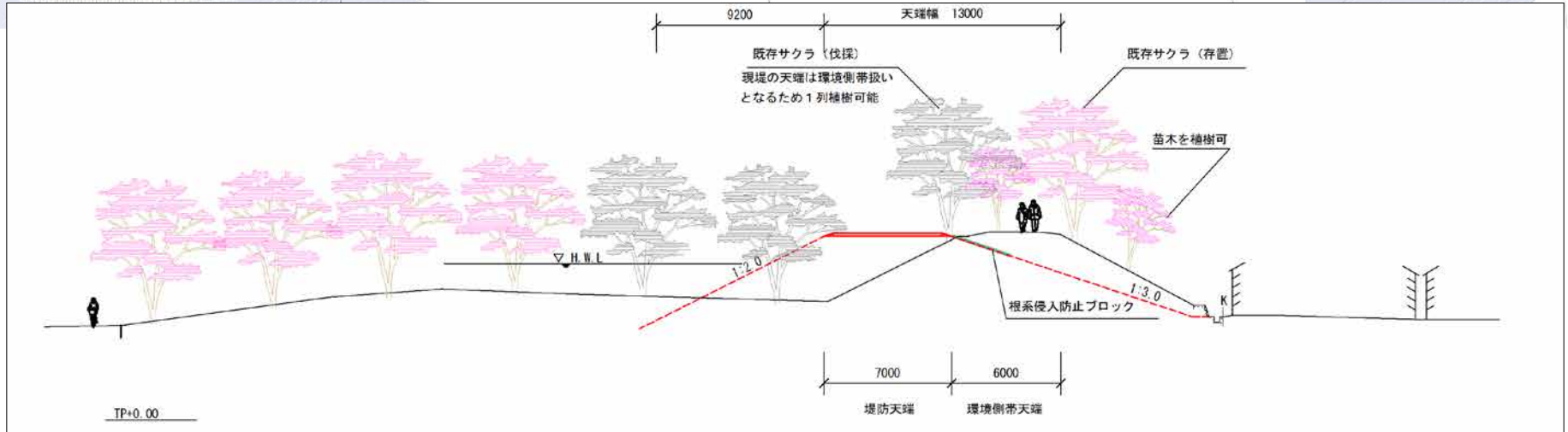
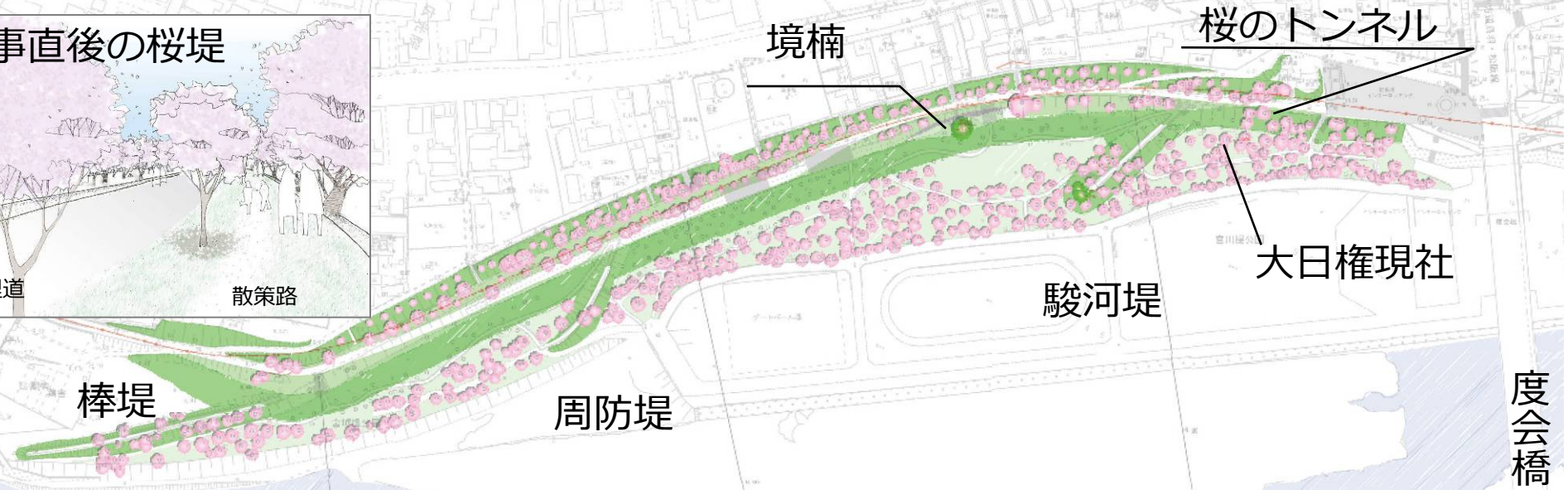
- ◆堤防上に3列の桜並木を形成 高水敷上の桜が減少
- ◆突出し堤の長さが大幅に短くなる（治水機能、環境機能の喪失）



◆桜堤区間の堤防法線は、歴史的な事物や桜の名所としての空間構造を最大限残すという視点、将来の桜堤の姿からA案（川裏法尻あわせ案）を選定した。

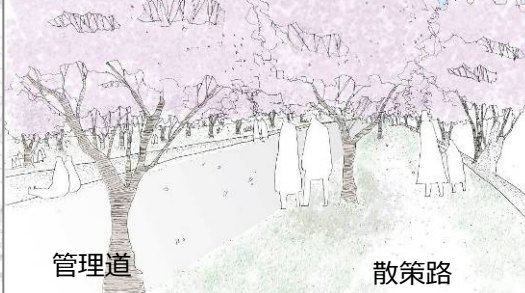


宮川橋



- ◆ 現存するサクラが寿命を迎える前に、植樹した樹木が見ごろとなる。
- ◆ 桜が十分に生長する20年後には、桜のトンネルが再現される。

将来の桜堤（約20年後）



宮川橋

棒堤

周防堤

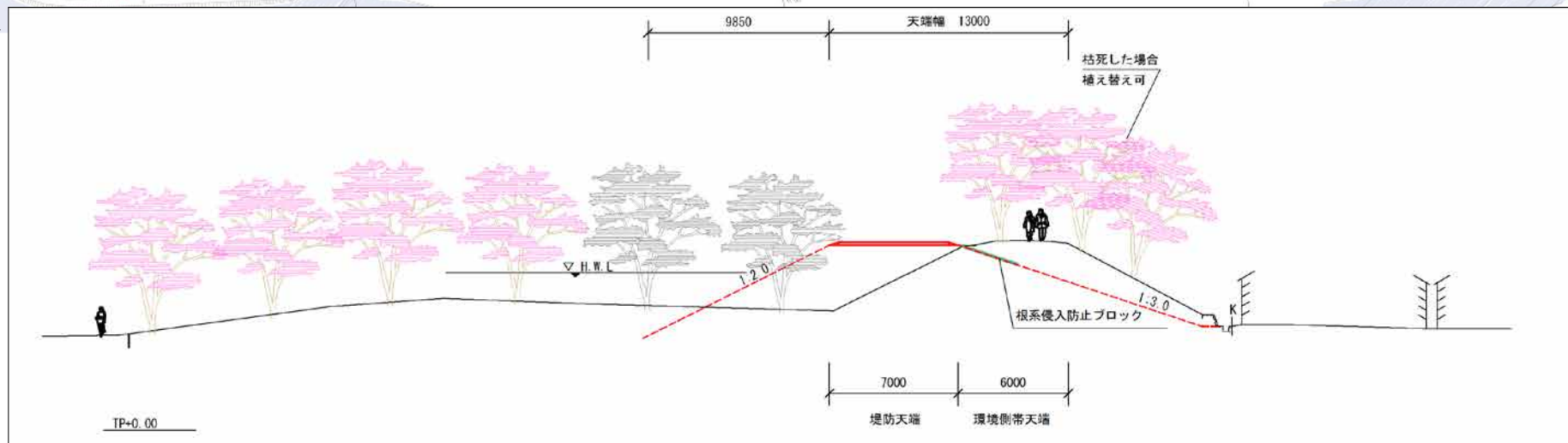
境楠

桜のトンネル

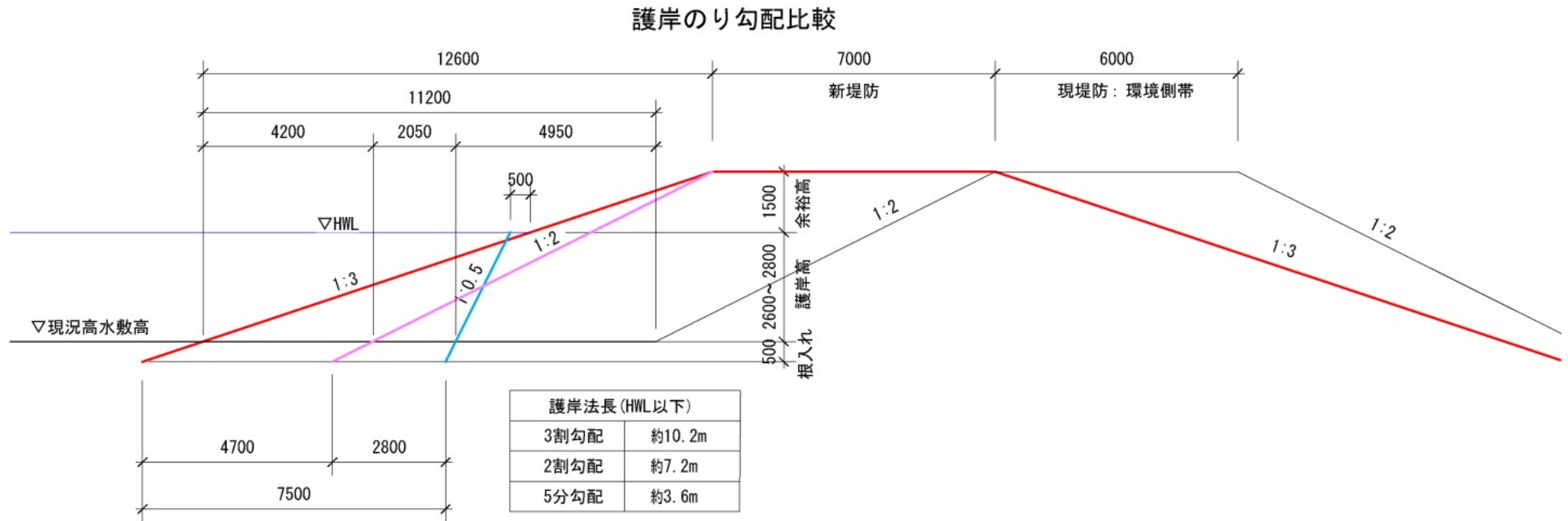
駿河堤

大日権現社

度会橋



◆ 桜堤区間の堤防の前出しについて、突出し堤の長さ（治水機能）を確保し、既存桜の伐採範囲を最小化する観点から、堤防の法勾配について検討した。



- ① 3割勾配：現堤防法尻から約12m前出しとなる
- ② 2割勾配：3割堤防より約4mセットバックできる。
- ③ 5分勾配：3割堤防より約6～7mセットバックできる。

◆ 突出し堤の保全、既存桜の伐採範囲の最小化の観点からは5分案が優れるが、堤防の浸透に対する安全性の確保の観点から、宮川堤の計画堤防断面（基本断面形状）を確保することを原則とし、基本的には2割の土堤案を採用する。

① 3割堤防案

○ やわらかい法面 施工性が良い

▲ 高水敷上の桜が減少

▲ 突出し堤の長さが減少

② 2割堤防案

○ やわらかい法面 施工性が良い

・ 高水敷上の桜が減少（中位）

・ 突出し堤の長さが減少（中位）

③ 5分堤防案

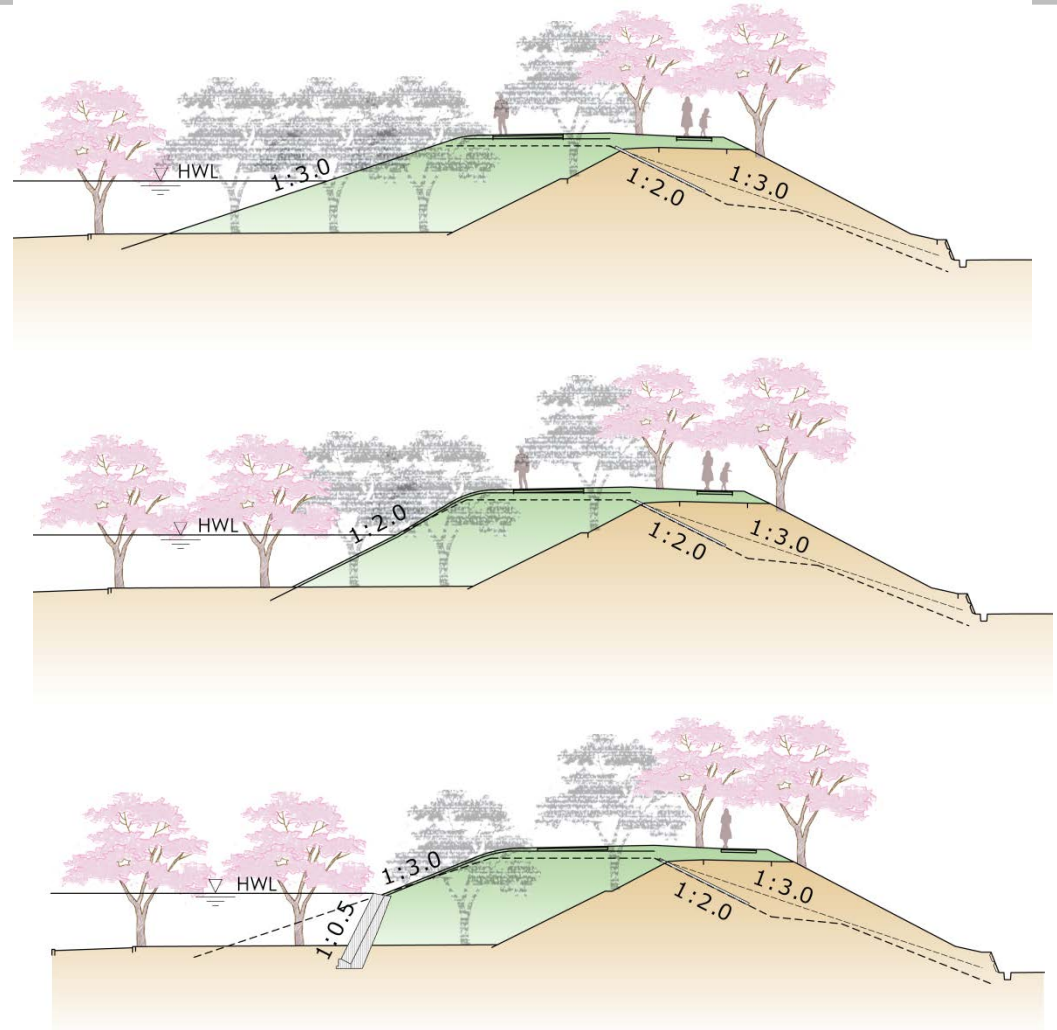
○ 風情のある石積み法面

○ 高水敷の桜

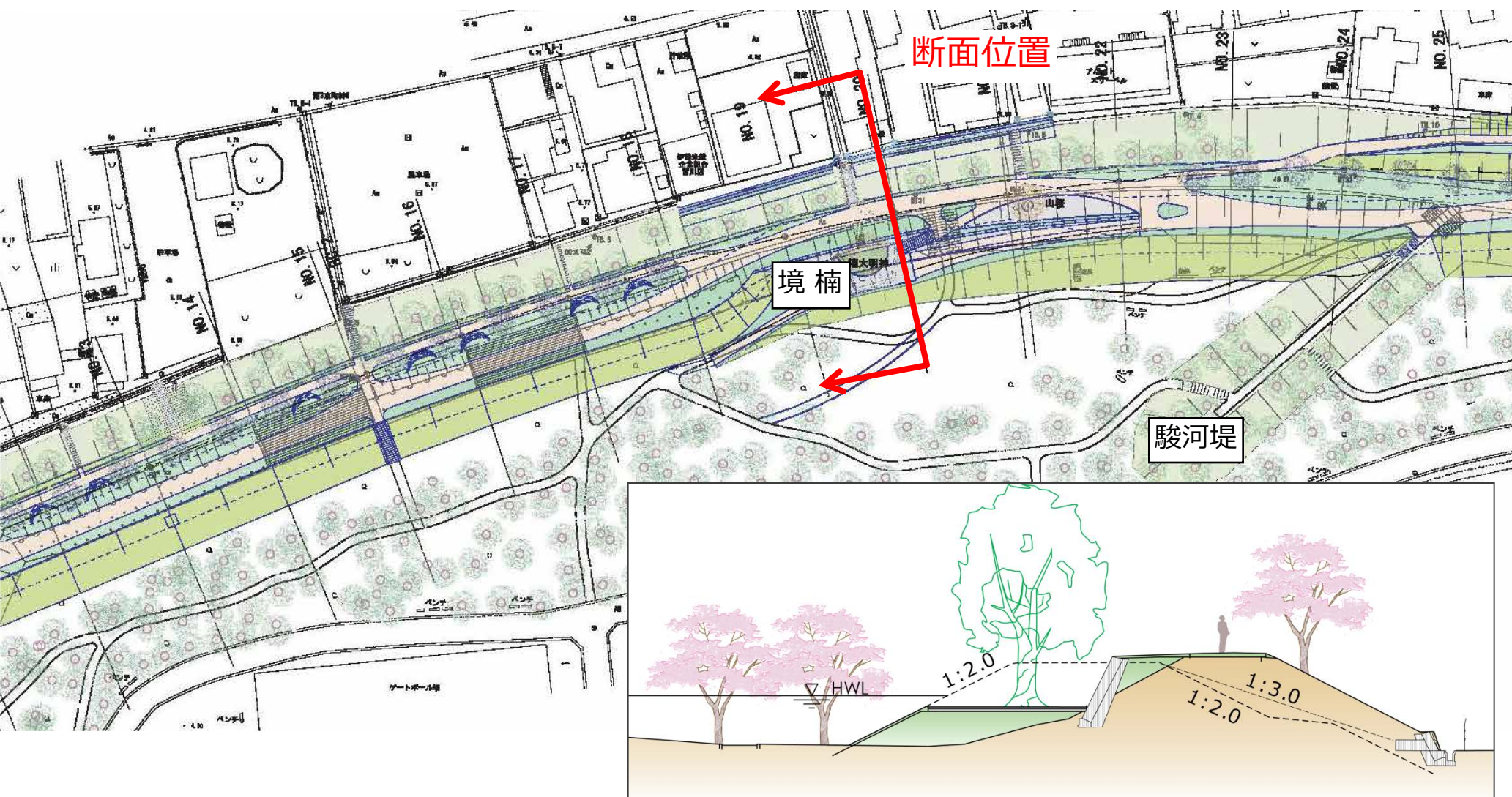
○ 突出し堤の長さを最大限残せる

▲ 護岸の高低差が大きい（2m程度）

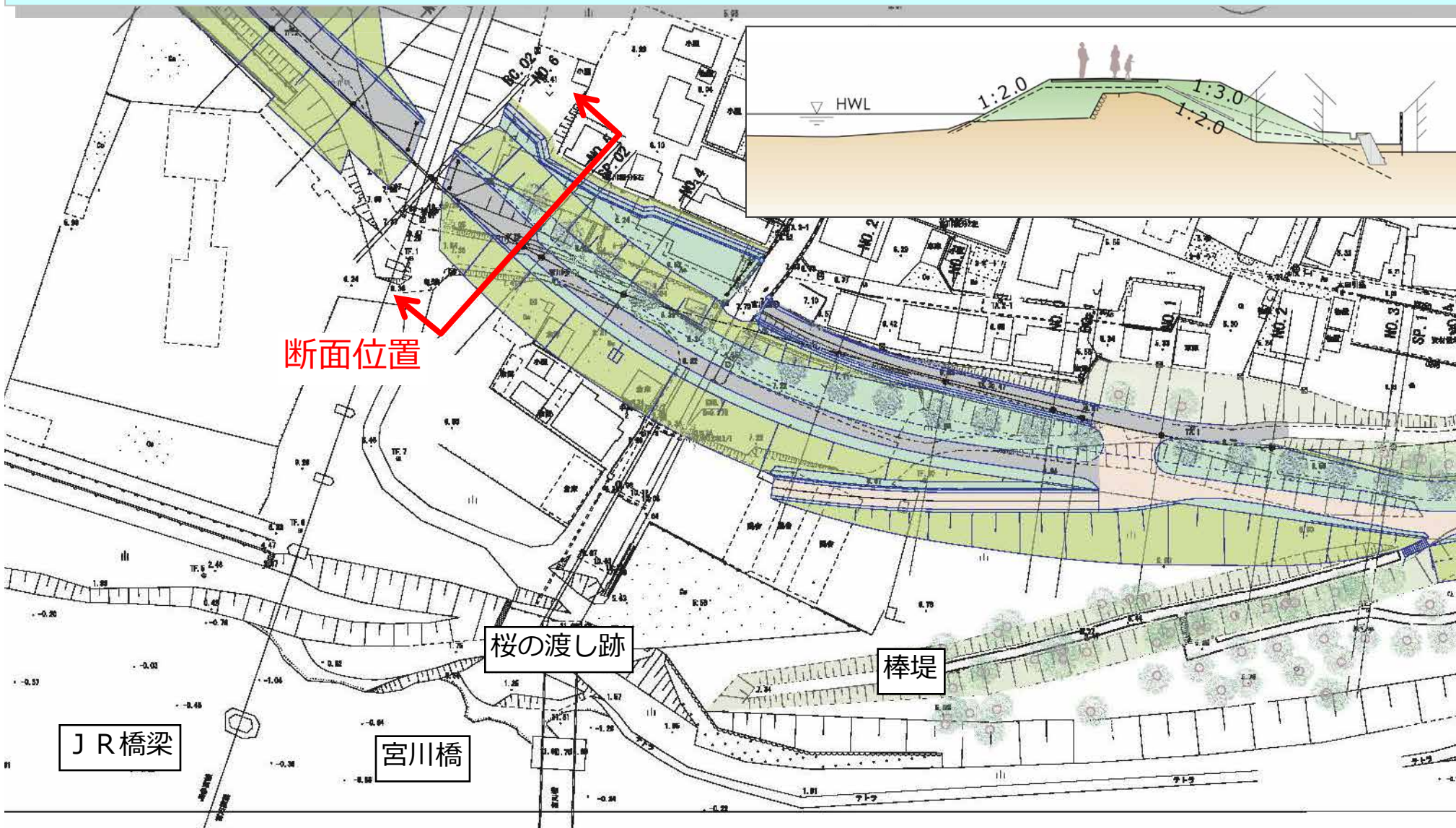
▲ 施工性が悪い



- ◆ 境楠は、特殊堤断面で現在の位置に存置。周辺を広場にしてたまり空間とする。
- ◆ ドレーンを設置し、浸透に対する安全性を確保する。



- ◆ 突出堤より前に出ない位置で堤防を川表側に大きくする。
- ◆ 州浜を創出し、かつての桜の渡し跡を再現した景観整備について検討する。



- ◆度会橋上流は川幅が狭いので、川裏側に堤防を広げる計画とする。
- ◆度会橋上流には、堤防改修と合わせて、水防倉庫等を整備する案について検討する。

